

「市制施行当時の暮らし」

岩倉市は令和3年12月1日に市制施行50周年を迎えました。今回の企画展では、「市制施行当時の暮らし」と銘打って、岩倉市に市制が施行された昭和46年頃に使われていた生活道具や写真をとりあげました。

岩倉市に市制が施行された昭和46年は、高度経済成長末期にあたります。経済成長による大量生産・大量消費によって、多くの品物が家庭に導入されました。この時期に家庭に導入されたさまざまなものは、その後も形を変えながら現在の家庭で使用されています。民俗資料を通じて生活の変遷を感じていただけたらと思います。

○機械式計算機



歯車など機械要素により計算を行う計算機。1970年代まで販売された。

○電卓



電卓は電子式卓上計算機を略した呼び方。昭和37年にそれまで机程の大きさだった電気式に替わり、卓上サイズの電子式が登場した。ELCA52は昭和47年発売で当時8万5千円だった。

○消防服



消防団員が着用する消防服とヘルメット

○豆炭行火



豆炭を燃料とした暖房器具で布袋に包み就寝時に布団に入れ用いられた。着火した豆炭を容器の中にあるくぼみに入れて使用する。品川あんかは品川燃料が昭和 34 年に発売し、当時 480 円だった。品川燃料は東京都にある豆炭製造会社で現在は改名してシナネンとなっている。

○電気炬燵 昭和 40 年代



檜炬燵の熱源として用いた電気式の暖房器具。商品名にコタツとあるが役割としては炭を用いた行火と同じである。電気コタツは大正時代から販売されていたが火災事故が多く普及はしていなかった。内部部品を改良した丸山型が昭和 4 年に松下電器製作所から発売され、昭和 40 年頃まで製造された。松下電熱は昭和 10 年に事業部が分社化された松下電器の子会社で昭和 19 年に本会社に吸収されるまで電熱器具を販売していた。

○電気行火



一人用の移動が容易に出来る電気式の暖房器具。主に就寝時に布団に入れて足を温めるのに用いる。三洋電気は昭和 24 年設立の電気メーカーで平成 23 年にパナソニックの子会社となった。

○電気火鉢 昭和 35 年頃



火鉢と同様につかう暖房器具。木炭の代わりに電気で熱したニクロム線を熱源とする。中の灰も人工物で断熱材として入れられた。

三菱電機 E-317 昭和 35 年製造

○手あぶり 昭和 38 年頃



手先を温めるために用いた小型の火鉢。小型であるために容器と炭火が近くなる事から本体には耐火性のある陶器や金属が用いられる。手焙りは主人用と客用の二個一組で作られる事が多かった。

○電気炊飯器



別名を電気釜とも呼ばれる電気を使って米を炊く調理器具。炊き上がり後に自動的にスイッチを切る機能がつけられており別売りのスイッチを入れるタイマーを併用すれば寝ている間に米を炊く事が可能となった。この自動式電気釜と呼ばれる電気釜は昭和30年に東芝によって発売されたのが最初である。まだ保温機能はなく炊き上がった後は飯櫃に移し変える必要があった。家事の手間が省けられる電気釜はすぐに普及し昭和35年には全家庭の半分にまで普及した。

○電気炊飯器



電気を使って米を炊く調理器具。ツインボード工業製。

○電子ジャー



炊きあがった飯などを保温するためのもの。初期の電気炊飯器には保温機能がなかったため、保温するためにジャーに移し替えた。象印マホービン製。

○炊飯ジャー



昭和40年代の保温機能と炊飯機能を持つ炊飯器が発売された。高度成長な真ただ中であり、魔法瓶などに色鮮やかな花柄デザインが流行していたことを受けて炊飯器にも花柄があしらわれている。タイガー製。

○トースター



食パンを焼く道具。スプリングとタイマーの付いたポップアップ型の電気トースター。オーブントースターの普及に伴い1980年代に国内での生産が終了した。東芝製

○ポット



象印マホービン製
中に温かい茶やコーヒーを入れて保温するための容器でこのまま茶碗やコップに注いで使用する。ポット等に籐をまいたデザインは昭和50年代から見られた。象印が昭和40年代に流行した花柄の次に用意したデザインである。

○電気ウォーマー



調理済みの料理を保温するときに用いた電化製品。ツインバード工業は新潟県燕市に本社がある家電を主に生産しているメーカーで昭和54年に現社名に変更した。

○8 ミリカメラ



株式会社エルモ社製。エルモ社は名古屋市瑞穂区にある精密機器メーカー。8mm幅のフィルムで映画を撮影するための機材。略して8ミリとも呼ばれる。音声は録音されない。昭和45年に発売され定価は47600円だった。8ミリカメラは1932年に家庭用が発売され、映写に免許が不要で取り扱いが容易であったことから普及し1970年代が最盛期で80年代後半に登場した小型のVHSや8ミリビデオに取って代わられていった。

○8 ミリカメラ



富士写真フィルム株式会社製。2006年に富士フィルム株式会社となった。昭和50年に発売され定価は43800円だった。

○ビデオカメラ



株式会社日立製作所製。平成3年に発売され定価は165000円であった。

動画を撮影し8ミリビデオテープに録画する撮影機材である。撮影と録画が出来る機器はカムコーダと呼ばれる。8ミリビデオ規格は1985年に登場し90年代後半にDV規格が登場するまで家庭用ビデオとして広く用いられていた。

○8 ミリ映写機



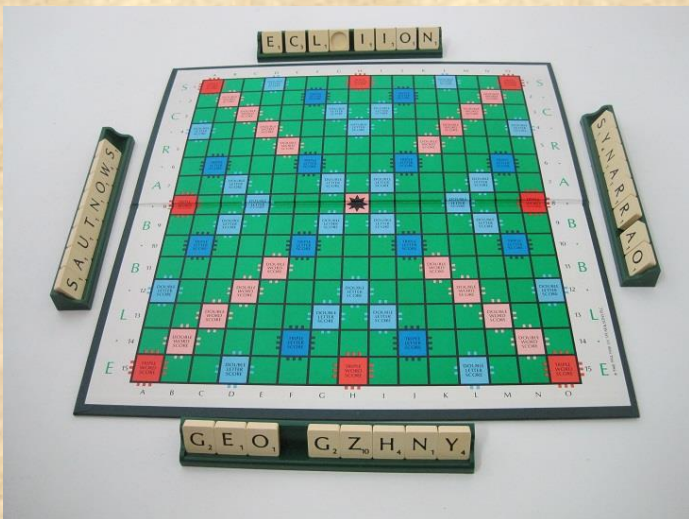
株式会社ヤシカ製。8ミリカメラで撮影した映画を再生するための映写装置である。リールから送り出されたフィルムを後方にあるランプで照らし前方に置かれたスクリーンに映像を映し出して鑑賞する。フィルムに音声は録音されていないのでテープシンクロ録音装置を接続する事でオープンリールテープに録音した音声と同時に再生される。昭和34年に発売され定価は19500円だった。ヤシカは昭和24年創業の長野県にあったカメラメーカーで昭和58年に京セラに吸収合併された。

○野球盤



野球をイメージしたボードゲーム。1972年（昭和47）に消える魔球が投げられるものが発売された。

○ワードゲーム スクランブル



単語を作成して得点を競うボードゲーム

○サッカーゲーム



サッカーを元にしたテーブルゲーム

○置き時計



昭和48年 御園食堂株式会社創立10周年記念
シチズン製



東京時計製造株式会社製
卓上や棚の上に置いて用いた電池式の時計。東京時計製造株式会社は昭和49年まで時計を生産していた神奈川県のカックメーカーである。



セイコー製
卓上や棚の上に置いて用いたネジ巻き式の時計。

○電気スタンド



白熱球を使用した電気スタンド。

企画・構成：岩倉民具研究会